

SHIRAKOBATO

# しらこぼと



1993. 11

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 115

日本野鳥の会埼玉県支部



識別という点からいえば「80%の識別」などは意味のないことである。

ちなみに、野鳥を見てその種を識別し種名を認識することを、私は勝手に「リコグナイズ(recognize)する」と称しているが、用語として妥当かどうかは分からない。

||||| こだわり その3 |||||

#### ◇シールは貼らない

私はスコープや三脚にシールとかステッカーを貼らないことにしている(最近の名前シールを貼ってはいるが)。そもそもスコープや三脚はバードウォッチャーにとっては武器であり、必要以上の装飾は不要である。むしろ、むき出しの鏡筒や三脚に刻まれるキズの一つ一つこそが思い出となるものなのだ。所々塗装が剥げた使い込んだスコープや双眼鏡こそベテランの貫禄である。

||||| こだわり その4 |||||

#### ◇支部に感謝

支部に育てられたバードウォッチャー、そういう自覚を常に持っている。

野鳥を見るだけなら一人だってできる。しかし、それだけではつまらなくなるのが人情であって、やはり仲間があったほうが楽しいに違いない。特に、ベテランバードウォッチャーにどこか連れて行ってもらうとか、いろいろ教えてもらうとかいうことは支部会員ならではのことであり、そうしたベテランの方々のお蔭で今の自分があるのである。だから探鳥会の担当その他支部幹事としての責務は、できるかぎり果たしたいと思っている。本稿のような原稿の執筆依頼についても快諾しなければならぬのだ。

||||| こだわり その5 |||||

#### ◇追っかけに抵抗あり

珍鳥が出たという情報を耳にしたら見に行きたくなるのも人情だろう。私も、それがごく近くとか、たいへん行きやすい場所であれば出かけて行くことだろう。

しかし、とんでもない遠方にまでその珍鳥を見るためだけに行くということには抵抗がある。地方の有名探鳥地に行くと探鳥するというのとは違って、あまりにマニア的な行動に思えるからである。



(ひでふさ 5歳)

||||| こだわり その6 |||||

#### ◇趣味は別にある

近頃は「趣味はバードウォッチング」などと言うとたいへん聞こえが良くなった。以前は友人に「最近トリ見てるんだ」などと言おうものなら、「ヘー、ナゴヤコーチンとか白色レグホンとか?」と真顔で聞き返されたものだったから、これはたいへん喜ばしい。

しかし、私にとってバードウォッチングは必ずしも趣味とは言いきれない。もちろん野鳥を見ることは楽しみであり気分転換ではあるけれども、ボランティアとはいえ支部幹事としての責務まで考え合わせると、感覚的にはワークに近いものがある(ウチの子供たちもお父さんの仕事は鳥を見ることと信じていたほどだった)。ボランティアとしての充実感を求めるのとは別に、鳥以外の世界にも趣味を持ちたいものである。

||||| こだわり その7 |||||

#### ◇それでも鳥が好き

バードウォッチャーはみんな自分のライフリストを持っている。初めて探鳥に参加したそのときに、ライフリストの最初の1行目が始まるからだ。そして、自分のライフリストを意識し始めたとき、そのバードウォッチャーは一人前になっているのかもしれない。

ライフリスト 300種到達も、長いバードライフにおいては一つの通過点に過ぎないわけで、まだまだ会いたい野鳥はたくさんある。まあ、これから先も今までと同じペースで歩いて行くことにしよう。というわけで、それでは皆さん、探鳥会でお会いしましょう。

## 事業部からも最新情報

●日本野鳥の会オリジナルカレンダー  
毎年大好評のカレンダー1994年版ができました。

テーマ 守りたい湿地と野鳥たち  
定価 1,100 円 会員価格 990 円  
(いずれも税込み)

サイズ B3版(縦50×36cm)  
表紙/マナヅル 1月/オオハクチョウ 2月/ユリカモメ 3月/チュウシャクシギ 4月/コヨシキリ 5月/オシドリ 6月/オオセッカ 7月/シマアオジ 8月/チュウサギ 9月/カイツブリ 10月/ミュビシ

ギ 11月/マガン 12月/タンチョウ  
探鳥会などで販売します。

●オリジナル年賀はがき  
こちらも好評、官製年賀はがきにオリジナルイラストを印刷して、1枚75円で販売します。

オナガ(水谷高英)・キセキレイ(水谷高英)・マナヅル(村上康成)・シベリアンハスキー(村上康成)の4種類。

1絵柄10枚単位で、支部事務局までお申し込みください。

## 地鳴き コーナー

尾瀬紀行『遭難寸前』物語

町田好一郎(本庄市)

9月に入って仕事も一段落。敬老の日から4連休でルンルン気分で尾瀬に出かけた。

鳩待峠下の駐車場は、私の車でちょうど満杯、ゲートオフ。まずはラッキーな滑り出しと、口笛など吹きながら、ノビタキや赤トンボに見送られて草もみじの湿原を横断、1日目の宿である東電小屋に着き、ビールで乾杯して早めに床に入った。

翌日は三条の滝にアタック。悪戦苦闘のすえ、無事に滝見物を終えての帰路、安心して足元を確認しなかったのが運のつき、2メー

トルほどガレ場を滑り落ちた。

落ちた瞬間は笑ってごまかしたが、湿原を抜ける頃になって、何か「アンヨ」の状態がおかしくなった。歩く度に痛みが伴うのだ。

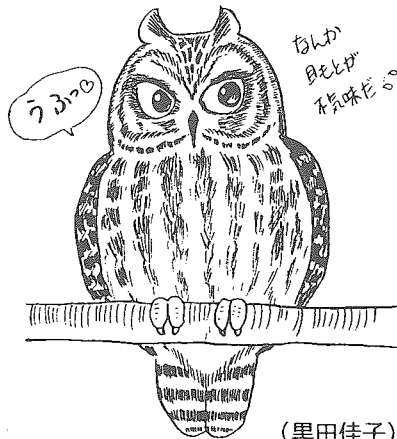
中田代の十字路を抜けて、これから尾瀬沼へのアプローチ。きつい厳しい峠越えに至って、足の自由がきかなくなってきた。その時が午後1時。尾瀬沼山荘まで普通に歩いても3時間は軽くかかるのだ。痛む足に鞭打ち、尾瀬沼に辿り着いたのが、5時30分過ぎ。山荘までは更に1時間以上かかる。

秋の山は暗くなるのが早い。宿には3時に入ると前もって連絡ずみ。電話も無線もなく、遅延の連絡もとれない。この時間を過ぎると登山者はまったく姿がない。気は焦る。足は言うことをきかない。ますます暗さがままして、足元も見えなくなってきた。歩いても歩いても灯りがまったく見えない。懐中電灯は車の中。ライターも切れて、まったくの闇になってしまった。

途中で木道が二つに分かれている。弱った、どちらが近道か判断できない。

と、その時、「チリッリーッ」という鳴き声が足元から聞こえてきた。アッ、ミソサザイだ。シルエットでわかる。

ミソサザイは、一方の木道をしばらく歩くと、盛んにさえずり始めた。あたかも「こっ



(黒田佳子)

ちの道よ」と言わんばかりに。

そうか、道案内に出てくれたのかと勝手に判断し、後をつけることにした。滑って転んだ拍子に「バカチョン」が飛び出してきた。こいつのストロボを電灯かわりに使おうと思いつき、ミソサザイの後をストロボをたきながらしばらくついていくと、道が大きく右に回り込み、何と山荘の灯りらしきものが水面に写っているのが見えてきた。

10メートル程先にいたミソサザイがいつの間にか消えてしまった。ストロボをたいては歩き、歩いてはたく。しばらくすると前方に懐中電灯を持った人が足早やに。山荘の人がさがしに来てくれたのだ。助かった、これで野宿しなくてもすむ、飯も食える、風呂にも入ると安心したら、急に腹が減ってきた。

暗い夜道、熊にも襲われず、ミソサザイ君とストロボのおかげで凍死もせずすんだ。多々反省しながら、感謝感激。

#### やっぱり鳥が好き！（その3）

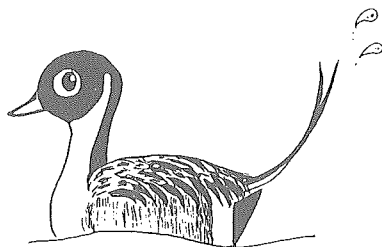
中村 治（上福岡市）

いよいよ冬鳥の季節がやってくる。中でも私が楽しみにしているのはジョウビタキである。

黒とオレンジの鮮やかなコントラストを持つオスも好きだが、私の目当てはメスの方である。探鳥会などでこんな話をすると、同調してくれる人もいるが、不思議な顔をされることの方が多い。やはり青や赤や黄色などカラフルな方が目につき、きれいだからなのだろう。

しかし、地味なメスにもそれ相応の良さがある。ヒタキ特有のあのクリクリとした瞳は、オスよりもメスの方が一枚も二枚も上である。それに、良く見れば、ほんのりと橙色を帯びた身体は、控え目な美しさとも言えようか。そんなことから、一部のバードウォッチャーの間では、ジョウビタキのメスのことを「お嬢様（おジョウ様）」と呼んでいる。

彼女はこの冬も、その愛らしい瞳とほのかな色香で、世の男じゃなかった、バードウォッチャーを魅了するのだろう。



（黒田佳子）

### 会 員 制 度

正会員 『野鳥』誌と『しらこぼと』の両方が毎月届きます。

年会費 7,000円 入会金 500円

普通会員 『しらこぼと』だけが届きます。

年会費 2,500円 入会金 500円

家族会員 正会員や普通会員の家族。『野鳥』誌や『しらこぼと』は、正会員たちに届くものをごらんください。

年会費 500円 入会金なし

入会手続＝郵便振替用紙の通信欄に、会員の種別、住所、氏名、電話番号、生年月日、職業を書いて、「東京 4-98389 財団法人日本野鳥の会」にお送りいただくのが便利です。

会費自動引き落としの制度もあります。本部普及部会員室03-5485-1566にお問い合わせください。

ジュニア会員 支部独自の、中学生以下だけが入れる制度です。『しらこぼと』だけが届きます。本部会員としては登録されません。 年会費 1,000円 入会金なし

入会手続＝郵便振替用紙の通信欄に、ジュニア会員であること、住所、氏名、電話番号、生年月日を書いて、「東京9-121130 日本野鳥の会埼玉県支部」にお送りください。

『野鳥』誌も読みたい人や本部会員として登録したい人は、正会員または普通会員として入会してください。高校生以上になったときも、あらためて正会員または普通会員として（入会金も払って）、入会手続が必要で

カイツブリ ◇6月20日、川本町の荒川、明戸堰上流で巣の中にヒナ6羽。一生懸命ヒナに餌を与える姿が良く見られました（菱沼一充）。

ゴイサギ ◇6月27日、飯能市の入間川、浄化センター付近で2羽（藤森三治・恵美子）。

ササゴイ ◇7月24日、富士見市の柳瀬川左岸の田んぼで若鳥1羽（中村治）。

オシドリ ◇8月3日、深谷市の上武大橋下流でエクリプスの♂1羽（井上幹男）。

コガモ ◇7月25日、大宮市日進1丁目の鴨川、下内野橋下流で♂♀各1羽。帰りそこねた御夫婦が仲良く泳いでいます（浅見健一）。

オカヨシガモ ◇6月27日、戸田市道満荒川第一調節池で♀1羽（駒崎政雄）。

ハシビロガモ ◇6月20日、戸田市道満で♂2羽（登坂久雄）。

ホシハジロ ◇6月20日、戸田市道満で9羽（登坂久雄）。

オオタカ ◇7月31日、本庄市の阪東大橋下流で幼鳥1羽。トビにお気に入りの止まり木を追い出される（井上幹男）。

ツミ ◇6月16日～18日、大宮市日進1丁目で1羽。胸の模様から若鳥と思われる。16日と17日は、獲物をムシャムシャやっているとところを見る（森本國夫）。

ハヤブサ ◇7月6日、深谷市の上武大橋下流で成鳥1羽。ムクドリらしき鳥を空中で

キャッチ。近くの鉄塔で食べる（井上幹男）。

チョウゲンボウ ◇7月10日、富士見市の柳瀬川左岸の田んぼで1羽（神場真文）。

◇7月27日、戸田市道満荒川第一調節池上空で1羽（陶山和良）。

コジュケイ ◇6月15日、上尾市春日の春日第二公園付近で親と子供4羽。けたたましい鳴き声をあげながら道路を横断（小貝喜久司）。

ヤマドリ ◇7月30日、両神山で1羽（大武昭雄・百合子）。

キジ ◇6月27日、戸田市道満荒川第一調節池で♀1羽、ヒナ7羽。ヒナはウズラほどの大きさになっており、飛翔力もかなりついていた（駒崎政雄）。

バン ◇6月20日、川本町の荒川、明戸堰上流で親2羽と幼鳥3羽（菱沼一充）。◇6月20日、戸田市道満荒川第一調節池で親と幼鳥8羽（登坂久雄）。

ツルクイナ ◇7月10日、浦和市秋ヶ瀬のAサイド区で♂1羽（渡辺喜八郎）。

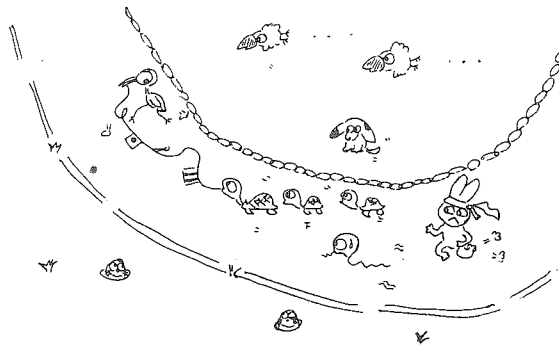
イカルチドリ ◇6月28日、吹上町大芦の休耕田で1羽（栗原省二・照子）。

ムナグロ ◇8月5日、深谷市の上武大橋下流で1羽（井上幹男）。

アオアシシギ ◇6月24日、本庄市の阪東大橋下流で1羽。今の時期見るのは初めて（井上幹男）。◇8月5日、本庄市の阪東大橋下流で1羽（井上幹男）。

クサシギ ◇7月31日、深谷市根岸の休耕田で夏羽2羽（井上幹男）。

タカブシギ ◇8月5日、本庄市の阪東大橋



(田中美智子)

下流で1羽(井上幹男)。  
 キアシシギ ◇8月5日、本庄市の阪東大橋下流で3羽(井上幹男)。  
 イソシギ ◇6月20日、戸田市道満で親とまだうぶ毛の残るヒナ1羽(登坂久雄)。  
 セイタカシギ ◇6月29日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。  
 アカエリヒレアシシギ ◇8月3日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。  
 ツバメチドリ ◇6月20日、戸田市道満の釣り堀上空で1羽。ツバメにモビングされる(駒崎政雄)。◇7月16日、本庄市の阪東大橋下流で幼鳥2羽。連続10年繁殖に成功する。親鳥2羽からエサをもらっていた。大雨で増水したり、砂利採取等で今年の子育ては苦労したに違いない(町田好一郎)。  
 ウミネコ ◇7月24日、本庄市の阪東大橋下流、島村上空で成鳥1羽(井上幹男)。  
 アジサシ ◇6月20日、戸田市道満荒川第一調節池で9羽(登坂久雄)。◇6月22日、本庄市の阪東大橋下流でコアジサシ群れ中に1羽(井上幹男)。  
 アオバト ◇7月31日、両神山で1羽(大武昭雄・百合子)。  
 ホトトギス ◇6月16日、大宮市日進1丁目  
 で1羽(森本國夫)。  
 アマツバメ ◇7月2日、深谷市の上武大橋下流で数羽(井上幹男)。  
 カワセミ ◇6月12日、熊谷市の三ヶ尻セメント工場内の貯水槽脇に1羽とまる。小魚を見ていたが獲らなかった(山口輝雄)。  
 ◇6月27日、飯能市の入間川、浄化センター付近で1羽(藤森三治・恵美子)。  
 アオゲラ ◇6月12日、吉田町の城峰神社で2羽。枯木にとまり、鳴きあいながら捕食していた(山口輝雄)。

アカゲラ ◇6月12日、吉田町の城峰山で1羽。約7メートル前の枯木に飛来。ドラミングやら羽づくろいを10分近く繰り返していた(山口輝雄)。  
 セグロセキレイ ◇6月13日、JR桶川駅西口公園で親がヒナ3羽を連れて餌を与えていた(立岩恒久)。  
 ツバメ ◇7月27日、大宮市宝来の河川敷のアシ原で数万羽のツバメが集合。ねぐらの上空を鳥雲となり、ツバメ柱となって渦を巻き、数10分後ねぐら入り。アシの穂先が真っ黒になり、チッチッチとしばらく鳴いていた(佐藤進)。  
 コマドリ ◇7月30日、両神山で1羽(大武昭雄・百合子)。  
 ウグイス ◇7月25日、大宮市日進1丁目  
 でさえずる。今頃どうしたのか、良い声で鳴いていた(浅見健一)。◇7月31日、鴻巣市武蔵水路近くの屋敷林で1羽。さえずりながら飛び回っていた。長年当地に住んでいるが、こんな時期にウグイスのさえずりを聞いたのは初めてです(長島岩雄)。  
 コヨシキリ ◇7月11日、富士見市の柳瀬川左岸のアシ原で1羽(中村治)  
 オオヨシキリ ◇6月20日、戸田市道満グリーンパークで巣立ちヒナ2羽(登坂久雄)。  
 サンコウチョウ ◇6月26日、東秩父村の白石分校周辺で1羽(田口浩司)。◇8月9日、東秩父村白石キャンプ場周辺で1羽(田口浩司)。  
 コムクドリ ◇7月25日、大宮市三橋1丁目の三橋総合公園で1羽、♀1羽。水たまりで水浴後、近くの枝で並んで羽づくろいをしていた(浅見健一)。◇8月1日、富士見市水子の柳瀬川、富士見橋付近のハナミズキで成鳥1羽、若鳥1羽(渡辺敦)。

表紙の写真

ネイチャーフォトコンテスト1993 入選作

オオジュリン (ホオジロ科)

別な鳥を撮っていたら、すぐ後ろでチェーン、チェーンとさわやかな声が聞こえてきたので、振り向くと、そこにはオオジュリンが。

地味な鳥だけど、冬の葦原の主役だと思

う。

1993年2月11日 渡良瀬遊水地

F-1 FD500mm F4.5

絞り開放 シャッター1/250 RFP

宇恵昭良(草加市)

# 行事あんない



## 上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月3日（水・祝）

集合：午前7時30分 丸山公園北口駐車場

交通：JR高崎線上尾駅西口1番バス乗場から  
上尾車庫行き7:03発に乗車、終点下車、  
徒歩20分（リーダーが案内します）。

解散：午前10時半ごろ

担当：立岩、内藤、吉原、岡安、阿久沢、  
丹、佐藤、永野（安）、永野（京）

見どころ：早朝の澄んだ空気の中でジョウビ  
タキ、シメなどの冬鳥と再会。〈早起  
きは三文の得〉を実感できます。

## 富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：11月3日（水・祝）

集合：午前9時 東武東上線柳瀬川駅前

担当：佐久間、石井（幸）、黒田、中村  
（治）、高草木、中村（祐）、神場、  
遠藤

見どころ：柳瀬川の土手に立てば、タゲリが  
ふわりふわり。川ではカモたちがのん  
びり昼寝中。間近でゆっくり、どうぞ。

## 大宮市・大宮市民の森探鳥会

期日：11月3日（水・祝）

集合：午前8時10分 JR宇都宮線土呂駅東口  
または午前8時30分 市民の森入口前  
（土呂駅東口より東へ5分）

担当：林（慎）、松井、藤原、桜庭、工藤、  
新堂、中村（榮）

見どころ：ツグミ、アオジ、コガモ。ご近所  
を散歩する気軽さで、モズの高鳴きを

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予  
約申込みの必要はありません。受付は探鳥会  
当日。参加費は一般100円。会員及び中学生  
以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼  
食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決  
行です。解散時刻は、特に記載のない場合、  
正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会  
埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当  
者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達  
もあなたを探していますので、ご心配なく。

聞きながら、深まりゆく秋を感じてみ  
ませんか。

## 浦和市・秋ヶ瀬探鳥会

期日：11月7日（日）

集合：午前8時 浦和駅西口バスロータリー  
（集合後、バスで現地へ向かいます）

担当：福井、楠見、草間、小林（み）、伊  
藤、笠原、嶋田、羽石、倉林

見どころ：雑木林の黄葉の枝に、見えかくれ  
するシメやホオジロの仲間たち。カワ  
セミの青い輝きにも、ご期待下さい。

## 吉見町・吉見百穴周辺探鳥会

期日：11月7日（日）

集合：午前9時30分 東武バス停百穴入口前  
（その後徒歩で吉見百穴へ移動）

交通：JR高崎線鴻巣駅東口（東海銀行前）よ  
り8:53発バスに乗車

担当：榎本、岡安、内藤、吉原、石井（幸）

見どころ：吉見百穴周辺に秋の深まり。静ま  
り返った湖面や雑木林に、野鳥たちの  
息吹を感じ取って下さい。

## 奥日光探鳥会（予約制）

定員に達しましたので締切りました。たくさ  
んのご応募ありがとうございました。

## 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：11月14日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

担当：菱沼（一）、森本、佐久間、関口、菱



沼(洋)、斉藤、塚本、中島(章)、  
小池

見どころ：すっかり晩秋の大麻生。小春日和  
に誘われて、河原を歩けばツグミ、シ  
メ、カシラダカなどの冬鳥がそここ  
こに。高い秋空にはノスリやチョウゲン  
ボウの勇姿が見られるかも。

#### 桶川市・川田谷探鳥会

期日：11月14日(日)

集合：午前8時45分 JR高崎線桶川駅西口  
(8:53発川越行き東武バスで現地へ)

担当：吉原、立岩、榎本、内藤、桜庭、新  
堂、佐藤(進)、阿久沢

見どころ：畦ゆけば さとき田晃が まず翔  
てり(土方秋湖) 年毎に姿を変え続  
けている江川沿いの田園風景をバック  
に、今年も白と黒の大乱舞。

#### 浦和市・三塞地区定例探鳥会

期日：11月21日(日)

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東  
口(集合後、バスで現地へ)または、  
午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺、手塚、伊藤、笠  
原、田口、岡部、嶋田、倉林

見どころ：冬鳥が勢ぞろい。昨年はカモ7種  
が出現、シメやカケスも登場。いよいよ鳥、とり、トリのシーズン到来で  
す。

#### 行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：11月23日(火・祝)

集合：午前8時45分 JR高崎線吹上駅北口ま  
たは午前9時30分 県立さきたま資料  
館前レストハウス

担当：内藤、岡安、榎本、逸見、関口、和  
田、石井(博)

見どころ：古墳を囲む池でカモの仲間、広場  
でツグミの仲間、枝を渡るカラ類、キ  
ツツキの仲間、上空のチョウゲンボウ  
を探してノーんびり公園を巡ります。

#### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：11月27日(土)午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

#### 野鳥写真クラブ定例会

とき：11月27日(土)午後2時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

#### 狭山市・人間川定例探鳥会

期日：11月28日(日)

集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口

担当：長谷部、石井(幸)、三田、佐久間、  
柳原、小野、山本、中村(祐)

見どころ：タヒバリ、ツグミ、カシラダカ、  
そろそろ冬鳥たちの顔ぶれもそろった  
ころ。ひさしぶりに会う彼らの声や  
姿、忘れていませんか。

#### 長瀨町・長瀨探鳥会

期日：11月28日(日)

集合：午前10時 秩父鉄道長瀨駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:04発(急行)または西  
武線所沢8:22発快急(長瀨直通)に乗  
車

担当：佐久間、菱沼(一)、吉原、立岩、町田、  
篠原(東)、関根、青山、岡野、小池

見どころ：紅、黄に彩られた荒川の岩畳、そ  
して碧のカワセミ、橙のオンドリ、鹿  
子のヤマセミ。めくるめく色彩の供宴。

#### 蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：11月28日(日)

集合：午前8時45分 JR宇都宮線蓮田駅東口

担当：中島、浅田、小林(恒)、入山、山  
岡、吉田(芳)、中村(榮)、吉安

見どころ：晩秋の農村風景を楽しみながら、  
コガモやタゲリを探します。

#### 伊豆沼探鳥会(要予約)

期日：12月4日(土)～5日(日)

定員に達しましたので締め切りました。

12月5日(日) 石戸宿定例探鳥会

1月29日(土)～30日(日) 銚子港探鳥会

(詳細は来月号をご覧ください)

# 行事報告



4月25日(日) 浦和市 秋ヶ瀬

参加: 67人 天気: 晴

カワウ アマサギ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ チョウゲンボウ コジュケイ キジ コチドリ ムナグロ タカブシギ イソシギ タシギ ユリカモメ コアジサシ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ オオヨシキリ セッカ キビタキ ヒガラ シジュウカラ カシラダカ アオジ クロジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) 朝早かったせいか、鳥の数も多くとても良かった。(福井恒人)

5月29日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 14人

赤松義正、荒木恒夫、海老原敦子、海老原美夫、佐久間博文、桜庭勇、佐藤信治、墨江光子、高松格、中村治、馬場昇、藤野富代、森静子、渡辺喜八郎

5月30日(日) 大宮市 大宮市民の森

参加: 35人 天気: 曇

カワウ コサギ カルガモ コジュケイ キジ バン コチドリ キジバト カッコウ カワセミ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 予報では午後より雨とのことであったが、柔らかい日も差すよい天気となる。下見の時、鳥の数も少なかったので、バラの花を見るコースにした。花を見ていると、近くの神社の森からカッコウの声が聞こえる。木の葉が邪魔で姿が見えない。そのうちに飛び立ちこちらの

方へ。お腹の線まではっきり見えた。芝川の兩岸は葦の茂りが深くオオヨシキリの声が響き渡る。川のへりを歩いているとカワセミが魚をくわえて飛んできた。これにはびっくり。何しろ悪水と呼ばれる位汚い川であり、カワセミを見たことがなかった。少しは綺麗になったのかもしれない。バンも出現し、皆さんにも喜ばれて終了した。(馬場 昇)

5月30日(日) 大滝村 三峰山

参加: 52人 天気: 曇

ジュウイチ ツツドリ ホトトギス アマツバメ コゲラ イワツバメ キセキレイ ミソサザイ コルリ ウグイス センダイムシクイ キビタキ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ カケス ハシブトガラス (24種) 周遊道の緑はすばらしい木の葉のブラインドで鳥は見づらい。探鳥会ならぬ探聴会。鳥合わせ中にゴジュウカラが頭上に2羽。キビタキは声だけで、見たのは一部の人だけだった。(林 滋)

6月6日(日) 北本市 石戸宿

参加: 42人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ヨシゴイ ゴイサギ コサギ カルガモ コジュケイ キジ ヒクイナ バン キジバト カッコウ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ メボソムシクイ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) アシ原にたつギョギョシギョの大合唱。飛び交うホオジロ、カワセミ。大きな鳥影はカッコウとゴイサギ。LUCK Y! ヨシゴイとメボソムシクイ出現。空には、

常連カワウの編隊。コウホネとスイカズラの植物学習。しっかりと桑の実も賞味して……。見て聞いて味わって、初夏の石戸宿は盛りだくさん。

(岡安征也)

6月12日(土) 茨城県 浮島温泉

参加: 53人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ヨシゴイ オオヨシゴイ ゴイサギ アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ ワシタカSP バン コチドリ イカルチドリ ツバメチドリ コアジサシ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ モズ オオセッカ コヨシキリ オオヨシキリ セッカ ホオジロ コジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス (33種) バスが首都高速の大渋滞につかまり、予定より1時間遅れて到着。探鳥会開始とほぼ同時にあちこちで歓声。「オオヨシゴイだ!」「ツバメチドリだ!」「コジュリン!」超目玉スターが続々登場。特にオオヨシゴイは、あぜ道をはさんで雄と雌がじっと見つめ合っている(?)シーンなど、十分に楽しませてくれた。コジュリン、オオヨシキリ、コヨシキリは、草原内にある無数の“お立ち台”に登って、姿と歌を披露。なかなか目につかないオオセッカも、多くの人がねばりにねばって、その姿をしっかりと確認したようだ。橋の建設等で、大分面積が減った浮島であるが、それでもこれだけ素晴らしい一日をプレゼントしてくれた。この環境がいつまでも保たれるように祈るばかりである。(小林みどり)

6月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 60人 天気: 曇

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ チョウゲンボウ コジュケイ キジ コチドリ イカルチドリ イソシギ コアジサシ キジバト カッコウ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 暑い中、60名

の参加者。野鳥の森は余り期待できないので、河原を旧押切橋まで歩く。先月はまだ小さかったアシも大分大きくなった。アシ原ではあちこちでホオジロ、オオヨシキリ、セッカの囀りが聞こえてくる。特にセッカは近くの灌木に止まってくれ、白い尾羽の先までよく観察でき、初めて見る人には良かったと思う。中州ではコアジサシとコチドリが繁殖しているようだ。途中、季節外れのマガモ♂と出会う。カルガモ(♀?)と行動しているようだ。カワセミはよく観察できなかったが、まずまずの探鳥会だった。(菱沼一充)

6月20日(日) 浦和市 三室地区

参加: 42人 天気: 晴

カイツブリ コサギ カルガモ コガモ バン ツミ キジ コチドリ キジバト カッコウ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 探鳥会の出現鳥が、この日のツミで100種となった。前日より降り続いた梅雨の豪雨が朝方くっきりとした快晴となる。“三室の探鳥会は、いつも天気だ”という参加者の声で調査してみたら、1990年9月の一時雨から33回、2年9ヶ月の間、雨が降っていなかった。三室の鳥見人には、雨男、雨女がないようだ。(楠見邦博)

7月4日(日) 上尾市 八枝神社

参加: 42人 天気: 曇

キジバト アオバズク ツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ スズメ ムクドリ オナガ (8種) お目当てのアオバズクは、明るいうちは1羽(多分♂)が高い木の枝で巢の見張りをしながら休んでいた。日没後(19:06)は、木の枝から外へ飛出しては、ガ(餌)をフライキャッチして巢へ戻る行動を何回も見られた。そのうちに♀2羽で同じ行動を繰返し、ひなが時々虫のような声でチリリリ、チリリリと親に餌をねだる声も聞く事が出来た。(立岩恒久)

連絡 中長

●ネチャーフォト コンテスト 1993 入選作品

9月19日(日)の役員会で、例年通り出品者名を伏せた作品本意の採点制による審査の結果、次のとおり決まりました。

オオジュリン(宇恵昭良)、アオジ・チョウゲンボウ・カイツブリ(宇賀神若人)、ノスリ(内田博子)、オナガガモ・ムナグロ・ヒヨドリ・ツミ・アオサギ・カワウ・ヒドリガモ・コゲラ(海老原美夫)、ホオジロ・オオヨシキリ(熊谷鉄雄)、ウグイス(佐藤信治)、アカエリヒレアシシギ・オナガガモ・カルガモ・カワセミ・コガモ・シジュウカラ・コサギ・ノビタキ・ヤマガラ(登坂久雄)、タマシギ・キジ(野川一臣)、コサギ・コハクチョウ・古代蓮(町田好一郎)。

以上入選30点。応募作品野鳥の部63点、その他の部14点、合計77点。応募者数13人。共に過去最高でした。すでに10月14日(木)から埼玉新聞で連載され、アズ熊谷でのパネル展でも展示、今月号からの表紙も飾ります。

●まぼろしの探鳥会事件

『野鳥』誌8月号の「支部ホットライン」欄で、当支部の探鳥会の日付が3ヵ所にわたって誤記され、8月9日と12日に大麻生、9月15日三室の「まぼろしの探鳥会」が生まれてしまいました。8月9日の分は手配が間に合いませんでしたが、8月12日と9月15日については、責任を感じて駆けつけた本部編集部員と共に支部リーダーたちが急遽臨時の探鳥会を開催して対応。記事を見て神奈川県から来た方もいました。

今後手違いの発生しないような体制を検討しています。

●埼玉県主催の写真コンクール

テーマ 県内で撮影された野生生物の生態(野鳥の部・昆虫の部・その他)

規格 4つ切り写真の裏面に、被写体名・場所・住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記した票を貼付

応募資格 県内在住・通勤・通学者

募集期間 平成5年12月1日～平成6年1月31日

送付・問合せ先 336 浦和市高砂3-15-1 埼玉県環境部自然保護課(電話048-824-2111 内線2424)

入選作品の著作権は埼玉県に帰属します。原版フィルムをあげてしまっても良い作品はこちらにどうぞ。詳しくは問い合わせ先に。

●11月の土曜日当番(2時～6時)

- 6日 新堂克浩 登坂久雄
- 13日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
- 20日 内藤義雄 中島章二(校正の日)
- 27日 袋づめの会(1時から)

●会員数は

10月1日現在 2,302人です

活動報告

- 8月30日 9月号発送作業(事務局)。
- 9月18日 10月号校正作業(海老原美夫・笠原伸子・田口浩司・渡邊光行)。
- 9月19日 役員会議(司会・立岩恒久、各部の報告・支部ホットライン連絡方法の改善策・秋のパネル展企画・コンテスト審査・その他)。
- 9月22日 アズ熊谷と、29日はアイリスメガネ本社(都内中央区)とパネル展打合せ(海老原)。

編集後記

秋もすっかり深まってまいりました。皆さんはどんなふうにお過ごしですか? 現在失業中という気楽な状況の私は、今年はおうちよっとまじめに鳥を見ようかな……などと思っていたのです。ところが、失業してからというもの、すっかり朝寝の習慣がついてしまいました。なかなか探鳥会にも出られません。鳥の秋にしようと思ったのに、残念だなあ……。惰眠の秋になりそうです。

(極楽トンボって私のことよ・黒田佳子)

『しらこぼと』1993年11月号(第115号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460  
 〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 東京9-121130  
 印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)

再生紙使用